

(仮称) 町田市産業振興計画19-28素案に対する パブリックコメントの実施結果について

「町田市新・産業振興計画」の計画期間が2019年3月で満了となることに伴い、「(仮称) 町田市産業振興計画19-28」の策定を進めています。このたび、素案に対するパブリックコメントを実施しましたので、結果をご報告いたします。

1 パブリックコメントの実施概要

(1) 実施期間

2018年10月15日(月)～11月15日(木)

(2) 資料の閲覧及び配布

計画素案については、町田市ホームページに掲載したほか、各市民センター、駅前連絡所、図書館等で閲覧していただくとともに、各施設で素案の概要を配布しました。

2 寄せられた意見の件数・内訳

(1) 件数

18者から、52件のご意見を頂きました。

(2) 内訳

項目	件数
計画全体について	7
各チャレンジについて	-
“立ち上げる”チャレンジについて	4
“広げる”チャレンジについて	4
“つなぐ”チャレンジについて	5
“ビジネスしやすく、働きやすいまちづくり”について	14
計画の推進について	6
その他	12
合計	52

3 今後のスケジュール

1月11日 第6回町田市産業振興計画策定検討委員会

1月中旬 ご意見の概要及び市の考え方の公表
(広報まちだ、町田市ホームページ等)

3月下旬 計画策定、行政報告(計画策定報告)、計画公表

(仮称) 町田市産業振興計画 19-28 素案に対する
ご意見一覧 (要約)

1 計画全体に関するご意見 (7件)

1	大きな方向性と政策の柱は、社会の流れを捉えた、そして町田の強みを生かした素晴らしいものと感じた。この方向性で力強く推し進めてほしい。
2	町田市はベッドタウンとして、然したる特徴が無い「自由時間都市」「まほろ町」として発展してきた町で、電車2路線と東名高速至近という有効なコンテンツを活かしきれていない。
3	「医療・福祉」部門の従業者数が多いが、大病院もなく、将来的にその部門で開業が増えていくのだろうか。
4	工業部門での産業育成が難しい町田市では、「教育・学習支援」にも影響する文化的産業の育成が長期で見ると必要になる。大学に医学部の設置を要望したり、駅前キャンパスも有効ではないか。また、芹が谷公園と国際版画美術館は全く生かされていない。博物館構想も無駄金にならないよう、モノレール路線も含め、総合的に進めてほしい。
5	素案に掲げる目標を達成するためには、いち早く意見を集約し、産業政策として行動に移すことが大切である。ネット通販の隆盛により、商都としての町田が近郊商圏において突出した都市として支持される時間は限られていると考える。そこにしがみつくとのは得策ではない。重点分野を決めて集中した施策に取り組むべきである。
6	アンケートデータを基に現状を捉え、実態に即した必要計画を策定していると思う。ゴールイメージである将来像が、ビジネスと働く人に焦点をあてて、地域の活性化を目指すという、根本方針が伝わってきた。
7	第4次産業革命の進展という状況の変化を予想する上で、情報通信業と製造業の発展を支援すること、あるいは情報通信業と製造業との連携が重要な施策となると考える。また、町田市の開業率が6.4%と高い点に注目し、「教育・学習支援業」、「医療・福祉」、「情報通信業」、「宿泊、飲食サービス業」の開業率の高さから、今後の成長が期待できる。競争力強化や付加価値向上等の意欲が高い事業者が多いという考察は大変興味深く、東京中小企業家同友会町田支部としては、「良い会社」「良い経営者」「良い経営環境」を目指す経営者団体という立場から、地元企業との連携を拡大し、町田市産業支援の一部でも支える存在として機能していきたい。中小企業の経営問題は山積しているが、今後も継続して市の活動に積極的に参加しながら、必要に応じて政策要望を提出するなど意見を発し、経営者団体としての使命を実践したいと考えている。

2 “立ち上げる” チャレンジに関するご意見（4件）

1	AI・ロボット・ドローン・フィンテック・バイオ等の今後の成長が見込めるベンチャー企業の誘致と起業を促すため、町田地域の経営者がエンジェル投資家となって経営者間の人的・物質的なネットワークを提供し、スタートアップ企業の成長を支援する「町田ファンド」（投資型ファンド）の創設を提案する。
2	自治体によっては集合形式の創業セミナーだけでなく、マンツーマンで個別支援型の創業支援を行っているところもある。もちろん、所定の時間数支援を受けると、法人設立時の登録免許税が半額になる。個別支援型の方が、手厚く支援できるため併用を検討してほしい。
3	町田で起業してもある程度の規模になっていくと町田を離れてしまう。他市からの誘致に負けない好条件を提示する必要もあるのではないかな。
4	他の自治体の創業スクールでも、年々人集めに苦労している所がある。少子高齢化の一層の進展を見据え、健康経営を推進することで、地域間の人材争奪戦で勝ち残る必要がある。それにより、質と量の人材確保により、指標「開業率の上昇」が達成されるのではないかな。

3 “拓げる” チャレンジに関するご意見（4件）

1	既存事業者に対する支援について、産業見本市や交流展への出展支援というが、出展するには莫大な費用がかかる。慰み程度の助成金を一度きりで支援といえるのか。
2	「まちだのイチオシ商品」として一体的なPRというが、まずは、学校給食等、行政とその関連機関で積極的に使って行く事から始めるべきではないかな。これ以外にも継続的な販路が求められている。特に営業力を持たない福祉施設等については市役所での定期的な販売だけでなく、ぽっぽ町田のような常時販売できる拠点を設けるべきである。市内だけでなく友好都市でも展開できるように働きかけてほしい。
3	中小企業の方々に伺うと、町田市の中小企業支援施策は概ね喜ばれている。トライアル商品認定制度やまちだ名産品認定制度等についても、合格を目指し、一層より良い商品を創ろうという意気込みが感じられる。仕事と家庭の両立表彰の受賞企業様から、今後の励みになるという気持ちも聞いている。“拓げる”チャレンジの指標を達成するための動機づけとして、表彰制度を更に充実・拡大してはどうか。

4	町田市は小売商業中心の市だが、商業以外のビジネス分野も活性化させるための施策に期待したい。起業・創業支援はもちろん、第二創業と呼べる事業の転換を図っている企業にも事業支援の目を向けることで、さらに有望企業を見出し、企業活性化に繋がるものとする。
---	--

4 “つなぐ” チャレンジに関するご意見（5件）

1	人材の採用・育成は、あらゆる業種の共通の課題であり、その重要性が増している。働きやすさ、欲しい人材の確保（人材バンク・M&A）、新規で設ける制度や既にある制度の活用促進も含めて考えてほしい。
2	経営相談について、以前中小企業診断士と言われる方に来てもらったが、通り一遍の事しか言わず全く時間の無駄であった。
3	起業後、30周年を迎えられる会社は、わずか0.02%しかない。少子高齢化の一層の進展を見据え、人的生産性向上に資するためには、当市でも開業の実態把握、そして今後の正しい施策の立案のため、実態調査フォローアップが必要ではないか。さらに、事業承継の実態把握も同時に実施することが効率的である。
4	指標として、事業所数の維持とあるが、それが果たして可能なのだろうか。昔と異なり、親族内承継は極端に減っている。また、中小企業の七十数%は赤字という統計資料もあり、この様な状況で従業員承継が可能だろうか。事業所数維持のためには、良い企業を町田から逃げさせないようにする事が必要であり、早めに着手して早めに対策が必須である。また、退職金や年金を払う事なく、廉価で質の良い仕事を託す事ができる、定年退職したキャリア仕業が活躍できると考える。
5	労働力人口の減少は、確実に迫りくる問題として早期に対策を進めないといけない。あらゆる分野においてIT技術を取り入れ生産性を向上させること、表面的な働き方改革ではなく、仕事の仕組みを変えるような啓蒙活動も重要になってくると思う。

5 “ビジネスしやすく、働きやすいまちづくり”に関するご意見（14件）

1	高ヶ坂地域には生鮮食品を買える場所が無く、困っている。特に高齢者は車で出かけることもできず、安心して生活できない。対策をお願いしたい。
2	町田市は商業の存在感が大きい「商都町田」であるが、実態は商店街のほとんどが賃貸テナントで、景況によっては、あっという間にシャッター通りになる可能性がある。
3	町田で働く勤労者のための音楽祭・文化祭・運動祭を開催することが肝心である。市内で開催される文化・スポーツイベント等に関して、勤労者に補助を与える等、正規雇用の勤労者に特典を付与してほしい。町田市勤労者福祉サービスセンターを積極的に活用し、従業員に資する事業を推進してほしい。
4	町田駅周辺を訪れる多くの来街者に、まちの賑わいを提供し、そこで消費をしてもらうことで、商店街の振興につながると考える。そのためには、ペDESTリアンデッキを大きく一体化して、中央部に商店街を誘致し、屋根をつくり、傘が無くても乗り換えができるようにすることを提案する。近い将来には多摩モノレールのターミナルにもなり、乗り換え客は一段と増え、立川駅より便利となり、商売繁盛は間違いないものと思う。また、町田駅の中心部から町田ターミナルプラザに向かうバス通りの左右どちらかの地上に歩行者専用（車いすも可）の通路を新設したい。町田ターミナルプラザ方面への人の流れをつくれれば、東方面の商店街の活性化に大いに寄与できるものと思う。
5	これまで商店街の店舗で、市の施策を受けて業績を伸ばしている店舗はない。計画が絵に描いた餅にならない様、進歩管理をしっかりしてほしい。また、計画の段階で個別にしっかりとカウンセリングをしてほしい。
6	団地と商店街の活用を求める。町田市は、団地や商店街と共に発展してきたと感じている。団地や商店街を過去の遺物とせず資産と考え、活用してほしい。
7	町田市は個人の地方税による税収の割合が高く、高齢化が進むと税収が減少する。そのため、企業の地方税による収入増加に戦略的に取り組む必要がある。そこで、駅近くに200～300人規模の事務所スペースを作り、名古屋や大阪の企業の本社を誘致することを提案する。

8	<p>年間小売販売額の大幅な減少やネット通販の拡大の影響で、「リアル」店舗は大きな波に襲われている。町田市が「選ばれるまち」としての魅力を高めることが最重要の課題であると思う。そのためには、ペDESTリアンデッキを通行する多くの人々を、市街地・商店街へ流すことが大事だと思う。例えば、桜やイチョウを植栽したり、冬季にはデッキから原町田大通りに向けて印象的なイルミネーションを実施するなど、デッキと原町田大通りが一体となるツールやイベントを用意し、いつ来ても楽しい街並みづくり、季節感のある街づくりが必要だと思う。</p>
9	<p>起業・創業を推進するにあたって、あまりにも賃料が高いことがネックになっていると思う。現状の不動産の相場賃料では、「ナショナルブランド」しか出店できない。行政と商店街が一体となり、家賃の補助制度を設けたり、期間限定のフリーレントスペースを運用したりすることを提案する。</p>
10	<p>町田市は交通アクセスも良く、ビジネスでも観光でも恵まれた所に位置しているが、市内に目を向けると、道路等のハード面の整備が遅れ、買い物客は駐車場が整備された近隣地域に流出している。「古着のまち」「個性のある個人商店」等、雑踏のある「町田らしさ」が失われ、大手チェーン店ばかりが増え、物販は壊滅している。今、抜本的なスクラップアンドビルドを推し進めないと、賑わいはあるが購買につながらず、税収に困窮することにもなりかねない。</p>
11	<p>商工会議所の建物は仮設でこれまで過ごしてきており、できれば新産業創造センターの地に、この施設と一体化されたものになることが望ましいと思う。</p>
12	<p>トップ当選の某議員が云ったような、商店街への見解はごもつともである。</p>
13	<p>商業以外のビジネスを増やすために、市内のオフィス、工場の新設・規模拡大は、企業の立場で重要である。職住近接の豊かなビジネス環境を整備することで、企業が集まってくる可能性が高まると思う。</p>
14	<p>住んで良し、働いて良し、消費も良しと、居住者にも、働いている人にも、商都の魅力を発揮し、市内外から幅広く消費する人たちが集まるようになればさらに活性化するのではないか。町田で住む魅力、町田で働く魅力にプラスして、買い物、遊び、食事などの魅力に溢れるよう、特色作りが大事だと思う。この点において「ビジネスしやすく、働きやすいまちづくり」の施策の柱には特に期待する。</p>

6 計画の推進に関するご意見（6件）

1	市に何でもやってほしいとは全く思っていない。活用度が高く実り多い個別施策をお願いしたい。
2	計画の「真」の達成こそが町田の繁栄に繋がるので、早い段階から事業者との懇談をお願いしたい。
3	本計画は、変化し続ける経済情勢に対応すべく、中小企業が生き残る為に必要な「企業間連携の強化」に特化した計画であると評価する。しかし、抽象的且つ理想を描いた絵に描いた餅で終わり、10年毎に同じことを繰り返すだけにならないためには、抽象論ではなく、革新的な具体策が必要であると考えます。
4	町田市は企業が集まるインセンティブに乏しいまちである。しかし、今後、AIやIoTの活用が進むことで、企業立地の要件として、土地が無い、環境が悪いといった理由は少なくなると思われる。今こそ、他の行政ができない（やっていない）ダイナミックな産業施策を打ち出すべきである。「画期的な新製品を開発してもなかなか売れない」、「企業の血液である資金は調達できるものの金利が企業経営を圧迫している」等、今ここで働いている人達の悩みから、一歩踏み出した革新的な産業施策の確立を期待する。
5	計画の策定は、いわゆる有識者を座長に、行政マンのシナリオで話を進めているのではないかと。町田の実態を把握している民間の力を活用すべきだと声を大にして述べたい。私がこれまで接してきた経済観光部の職員は聞く耳を持つ素晴らしい人が多かったと思っているが、組織となるとどうか。その良さが発揮されるよう、活躍に期待する。
6	2019年度から2028年度に向けて、右肩下がりの環境の激変が避けられない今後の時節を考えると、市や商工会議所等の各々の機能を十分に発揮するためには、黒子機能としてキャリア保持者や士業組織の一層の活躍が期待されても良いと思う。

7 その他のご意見（12件）

1	市場形成について、どのような層が暮らすかによってビジネスの展開が大きく変わる。居住人口を増やすと共に「層」も考慮してほしい。
2	市の道路整備には欠点があり、特に町田街道の渋滞は来街者の激減に影響していると思う。混雑する町田シバヒロ付近の渋滞を解消するため、交番前の交差点を左折のみのロータリーにしてはどうか。
3	子どもがいる世代に選ばれ、人口流入を促すため、小中・中高などの一貫校を創設し、教育に力を注ぐことを提案する。学校の統廃合により使用されなくなった施設を有効活用することで、地域に子どもが残り、地域住民からも受け入れられやすいと考える。
4	現在の町田は、何でもあるけど（映画館は除く）、何にもないと言われている。なんでもかんでも良くしようとして特色のない“まち”であり続けることは勿体ないと思う。
5	小田急が2018年1月に発行した「町田ぴあ」のような町田の魅力を発信する冊子を継続的に制作し続けてはどうか。商工会議所の会報では、目にする人が限られるため、一般消費者が手にすることができる形での情報発信が必要と考える。
6	空き家等の活用について、あまり一軒家が空いているというイメージは無かったが、滋賀県豊郷町では、建築系の学生が空き家を改修し、格安でシェアハウスとして住んでもらい、契約期間満了後に住める状態になった家を返還するという試みを行っている。団地に関しては、以前森野団地を取り壊してスタジアムを建設するという発想を聞いたが、無理はあるもののダイナミックで面白いと賛同する。
7	シバヒロは、いつまでも塩漬けにしておくのではなく、隣の市に負けない市民ホール等がほしいと思う。
8	「町田福祉祭？」というイベントがあり、参加者や出店者から、内輪と関係者だけで全く賑わいのない事業だと聞いた。行政主体でなく、市民や参加者の目線で計画と実行を望みたい。
9	町田市、町田商工会議所、町田市農協、生産者、知的障害者施設、職場体験の中学生、そして私のような事業者。これは私の理想とする構図である。

10	「ビジネスに、働く人に、心地よいまち」を具体的に進めるために、店頭における犬・猫の生体販売を町ぐるみで禁止することを提案する。真の犬猫の殺処分ゼロを実現することにより、「心豊かな、心地よいまち＝町田市」を望む。
11	町田駅周辺は最近脚光を浴びている。昼夜を問わず、だれもが安全に、安心して楽しめる街であってほしい。
12	多摩都市モノレールの導入については、地域住民の特に重要なテーマとして取り上げてほしい。忠生、山崎地区在住の社員からも市の中心部へ移動する手段として期待されている。是非町田市としても強力に推進をお願いしたい。

(仮称) 町田市産業振興計画 19-28 ～チャレンジするなら、TOKYOの町田から!～ 素案の概要

1. 計画の概要

(1) 計画の目的

町田市では、2009年4月に施行した「町田市産業振興基本条例」に基づき策定した「町田市産業振興計画」(2009年度～2013年度)及び「町田市新・産業振興計画」(2014年度～2018年度)に従い、創業支援施設の整備やものづくり事業者への支援制度創設など、さまざまな取り組みを進めてきました。

今後、技術の革新、消費行動や働き方の変化など、目まぐるしく変化し続ける社会環境の中、ビジネスや働く場として「選ばれる都市」であり続けるために、10年後、さらにその先の市の姿を見据えた産業振興の方向性を示す「(仮称)町田市産業振興計画 19-28」を策定します。

(2) 計画の計画期間

計画の計画期間は、2019年度～2028年度の10年間とします。

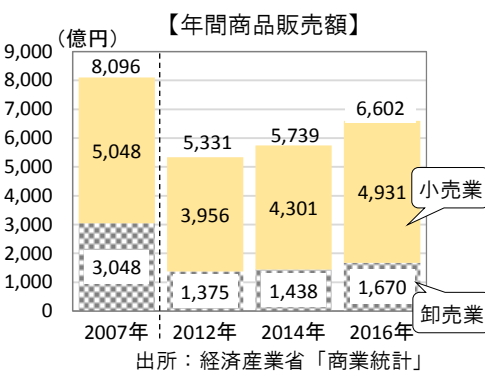
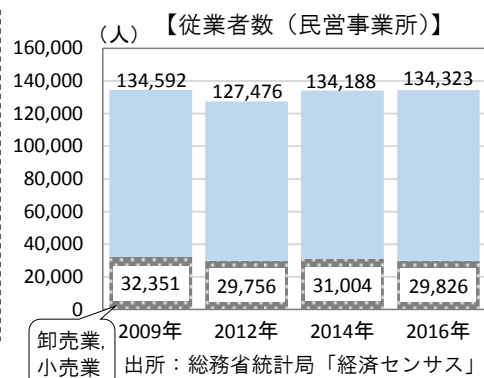
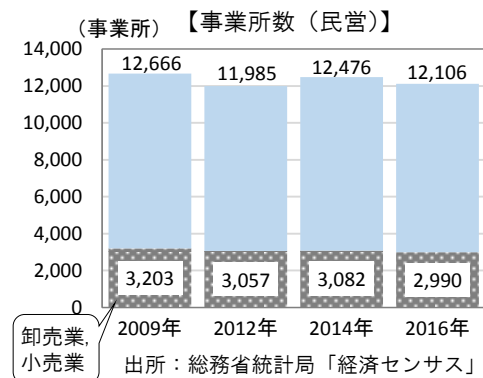
(3) 計画の位置づけ

「町田市産業振興基本条例」に基づき、町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」を上位計画として策定します。

2. 市の産業をめぐる現状と、今後予想される変化

(1) 市の産業の概観

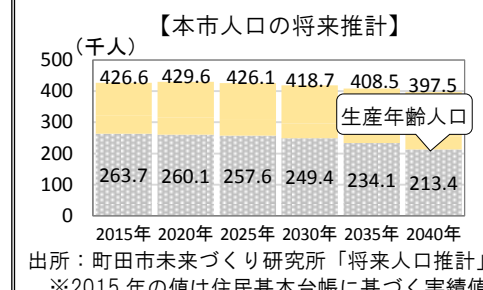
- 2014年から2016年にかけて、市内の事業所数は微減、従業者数は横ばいで推移
- ・町田市の民営事業所数・従業者数ともに、2009年から2012年にかけて減少したが、2014年には2009年に近い水準に回復した。2014年から2016年にかけて従業者数は概ね横ばいで推移しているが、事業所数は減少している。
- 事業所数・従業者数ともに「卸売業・小売業」の割合が高く、年間商品販売額には回復傾向が見られる
- ・町田市はこれまで「商都・町田」として発展を続け、2016年では市内事業所数の24.7%、従業者数の22.2%を「卸売業、小売業」が占める。年間商品販売額は2007年より低い水準で推移しているが、近年は増加が続いている。



(2) 予想される状況の変化

●労働力人口の減少

- ・町田市の人口は、2020年以降、減少が続いていく見込み。
- ・生産年齢人口(15～64歳)の減少により、労働力不足が深刻化。



●社会やインフラの変化

- ・広域幹線道路ネットワークやリニア中央新幹線の開通など、今後、首都圏の交通が大きく変化。
- ・多摩都市モノレールや小田急多摩線の延伸に向けた取り組みが進展。
- ・働き方改革の実現に向けた取り組みが進展。

※1: IoT
身の回りの様々なものをインターネットに接続し、相互に情報の収集・交換を行い、効果的な制御や遠隔操作等を可能にする技術。家電や医療機器、交通機関等、日常の様々な場面で活用される。

※2: ビッグデータ
大量に蓄積されたデータに基づき、詳細な分析を行う技術。

●第4次産業革命の進展

- ・AI(人工知能)、ロボット、自動運転などの技術革新が進展。
- ・IoT※1、ビッグデータ※2の活用等により、新しい技術を用いたサービスが、産業や日常生活の様々な場面に普及・浸透。
- ・新技術の活用により、生産性が向上。個々の消費者の状態・ニーズに応じた製品やサービスの提供が可能に。

(3) 町田市における10年後の将来イメージ

現状及び今後予想される変化を踏まえ、10年後の町田市の様子を以下のようにイメージしました。

→新たな技術の浸透

- ・車の自動運転など、現在研究開発が進められている技術が社会に浸透し、市民の生活が更に便利になっている。
- ・AIやロボットの活用により、仕事の効率化が進み、余暇や、新たな仕事に充てる時間が増加している。
- ・単純労働が減少し、労働に対する価値観の多様化により、市民の仕事に対する姿勢や求められる能力が変化している。

→交通やまちの機能の変化

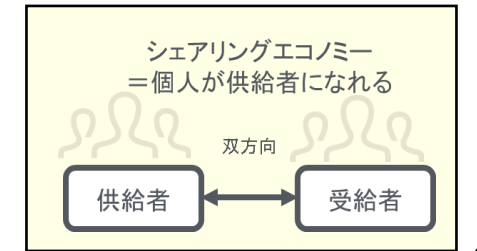
- ・多摩都市モノレールの導入路沿線や駅の整備予定地周辺は、利便性向上への期待感から、住居やビジネスの場所として選ばれ始めている。
- ・都心へのアクセスの良さを活かし、起業やイノベーションの拠点となっている。
- ・少子高齢化による空き家の増加等をきっかけに、利用されていない家屋等を活用した新しいビジネスやコミュニティが生まれている。

→生活スタイルの変化

- ・良好な住環境から、テレワークなど時間や場所にとらわれない多様な働き方を実現できる場として子育て・シニア世代から選ばれている。
- ・キャッシュレス決済や仮想通貨が浸透し、まちなかの商店での普段の買い物や、事業者の資金調達にも活用されている。
- ・シェアリングエコノミー市場が拡大し、モノを保有しない文化や個人のスキルの共有化が市民の生活に浸透している。



出所：多摩モノレールHP



(4) 市内における事業者の現状

●起業・創業の意欲が高い

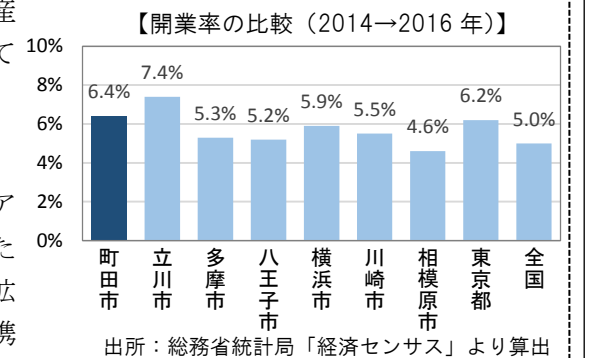
町田市の開業率※3は全国よりも高い水準にあります。また、町田新産業創造センター※4の創業支援のための個室において満室の状態が続いていることから、起業・創業の意欲が高いことが伺えます。

●新たな製品・サービスの開発、異業種連携等への取り組みが活発

町田市が実施した市内事業者向けのアンケート調査(以下、「事業者アンケート」)の結果を見ると、販路開拓や新分野への進出といった、新たな事業展開に関心を持つ事業者が多く、自社の競争力の強化や事業の拡大に前向きであることが伺えます。また、他の企業や研究開発機関と連携した取り組みについても積極的な回答が多く見られます。

●既存事業の継続・承継に向けた取り組みの重要性が高まっている

事業者アンケートの結果から、人材育成や事業承継など、事業を継続していくために重要な事項について課題を抱えている市内事業者が多いことが伺えます。



※3: 開業率
一定期間において、新規に開設された事業所数(年平均にならした数)の、期首に存在していた事業所数に対する割合。

※4: 町田新産業創造センター
2013年4月に開所した創業支援機関。独自性のある起業家に対する支援に加え、市内中小企業に対する支援活動も行っている。

市内産業を継続的に発展させていくため、本計画においては、10年後の将来の変化を見据え、市民や事業者等が取り組む様々な「チャレンジ」を支援するとともに、「チャレンジ」しやすい環境づくりを進めます。

3. 目指す将来像と施策の展開

(1) 目指す将来像と施策の柱

町田市の産業の現状や、今後予想される社会・経済に関する情勢の変化等を踏まえ、本計画では「立ち上げる」・「拡げる」・「つなぐ」の「3つのチャレンジ」の促進・支援と、「ビジネスしやすく、働きやすいまちづくり」からなる4つの柱を設定し、これらの柱に基づく施策を推進することで、<ビジネスに、働く人に、心地よいまち>を目指します。

また、施策の成果を測るため、計画全体及び柱ごとの成果指標を設定し、効果的な取り組みを進めていきます。

【本計画における「4つの施策の柱」と目指す姿、及び将来像のイメージ】

【将来像】

ビジネスに、働く人に、心地よいまち

計画全体の指標：付加価値額^{※1}の増加【現状値：5,416億円（2016年）】

【目指す姿】

たくさんの新しい企業やビジネスが誕生し、起業・創業がしやすい風土が根付いている。	新分野・新技術への進出や異業種間連携等をきっかけに、市内事業者のイノベーションが促進され、自社や地域の強みを活かした他にはない新しい価値が生み出されている。	将来を見据えた人材育成と円滑な事業承継により、市内事業者の優れた技術・ノウハウが次世代に受け継がれている。	それぞれのライフスタイルに合った多様な働き方が実現できるまちとして、多くの人に選ばれている。まちに賑わいがあり、ビジネスに適したまちとして多くの事業者を選ばれている。
【指標】 開業率 ^{※2} の上昇 (経済センサスに基づき算出) 【現状値：6.4%(2014年→2016年)】	【指標】 1事業所あたりの付加価値額の増加(経済センサスより) 【現状値：5,070万円(2016年)】	【指標】 事業所数の維持 (経済センサスより) 【現状値：12,106事業所(2016年)】	【指標】 昼夜間人口比率 ^{※3} の上昇 (国勢調査より) 【現状値：91.7%(2015年)】

【施策の柱】

”立ち上げる”チャレンジ 新たに事業を立ち上げるチャレンジを支援します。	”拡げる”チャレンジ 事業者が競争力を高めるチャレンジを支援します。	”つなぐ”チャレンジ 事業を継続し、次世代へ承継するチャレンジを支援します。	ビジネスしやすく、働きやすいまちづくり チャレンジを促進するための環境づくりを推進します。
--	--	--	---

※5：付加価値額 企業の生産活動によって新たに生み出された価値のことを指す数値。
 ※6：昼夜間人口比率 昼間人口（町田市に常住する人口から町田市外に通勤・通学している人口を除き、市外からの通勤・通学してくる人口を加えたもの）を、町田市の夜間人口（町田市に常住する人口）で割った値。これが100%を上回っていれば、通勤・通学のために流出する人口よりも流入する人口が多いまちであり、逆に100%を下回っていれば、流入よりも流出が多いまちということになる。

(2) 施策の方向性と個別施策

施策の柱	施策の方向性	個別施策
”立ち上げる”	起業・創業の魅力を伝える	◎幅広い世代に向けた起業・創業の魅力発信 ○起業・創業への第一歩を支援
	想いを形にするためのサポート	○起業・創業の実現に向けたニーズに沿った支援 ◎起業・創業支援の担い手の拡充(★)
	起業・創業後の事業拡大を後押し	◎起業・創業初期の経営支援 ◎起業・創業後の事業拡大に向けた資金調達支援
<個別事業の例> ・民間の創業支援施設との連携による支援 ・創業融資の拡充や創業者と投資家とのマッチング支援		
”拡げる”	新分野・新技術への進出を後押し	◎産業財産権に関する啓発・取得の支援 ◎新技術を用いた商品・サービス開発、販売等の促進(★) ◎新しいビジネスモデルに挑戦する事業者を支援(★)
	独自の「強み」を磨く取り組みをサポート	○自社の技術を活かし、競争力を高める取り組みを支援 ○町田の特色や強みを活かした商品・サービスの開発・ブランド化の促進 ◎販路拡大の支援
	異業種・異分野との連携による新たな価値の創出を促進	○異業種・異分野との連携機会の創出 ◎連携による新たな価値の創出に関する支援(★)
<個別事業の例> ・産業財産権に関するセミナー等の開催 ・EC(電子商取引)の導入支援 ・シェアリングエコノミー等に関する情報提供		
”つなぐ”	安定した事業継続をサポート	◎コスト削減や売上向上の取り組みを支援 ◎業務の効率化・生産性向上を促進(★) ○事業継続の課題解決に向けた取り組みを支援
	次代を支える人を育てる	◎将来を担う人材の確保を支援(★) ○人材育成やキャリア形成に関する支援
	円滑な事業承継を推進	◎事業承継に対する早期の対策の促進(★) ◎事業承継や後継者育成に関するニーズに応じた支援(★) ◎事業承継マッチングや事業承継手続きに関する支援(★)
<個別事業の例> ・キャッシュレス対応の支援 ・ITを活用した生産性向上の支援 ・健康経営事業所に対する支援 ・第三者による承継(M&A)を含む多様な事業承継の促進		
働きやすいまちづくり	働きやすいまちづくりを推進	◎多様な働き方を実現するための環境づくり(★) ○心地よく働き続けることができる環境づくり
	「選ばれるまち」としての魅力高める	◎事業者サポート体制の充実(★) ◎多様な資金調達の支援(★) ○市内におけるオフィスや工場の新設・規模拡大を支援 ◎町田の特色や強みを活かした事業者の集積を促進(★) ◎町田で働く魅力の発信(★) ◎産業支援に関する有効な情報発信(★)
	まちの賑わいを生み出す	○コト・トキ・モノ消費を楽しむ空間としての「商店街」の育成支援 ○町田の産業の魅力発信
<個別事業の例> ・多様な働き方を推進するセミナー等の開催 ・町田の特色や強みを活かした事業環境の整備 ・町田で働く魅力を伝える授業やイベントを実施 ・支援機関と連携した産業振興に関する統一的な情報発信		

<凡例>
○：継続
◎：拡充
(★)：新規事業あり

4. 本計画の推進体制

本計画を着実に推進するため、本計画に基づく具体的な事業とそのスケジュールを示した実行計画を策定します。本計画の推進にあたっては、市に加え、町田商工会議所や町田新産業創造センターを始めとした各産業支援機関、金融機関や大学等の教育機関、民間事業者等が担い手となり、互いに連携しながら各事業に取り組みます。

また、これらの取り組みの円滑な推進と本計画の進捗管理を行うため、推進委員会を組織します。

